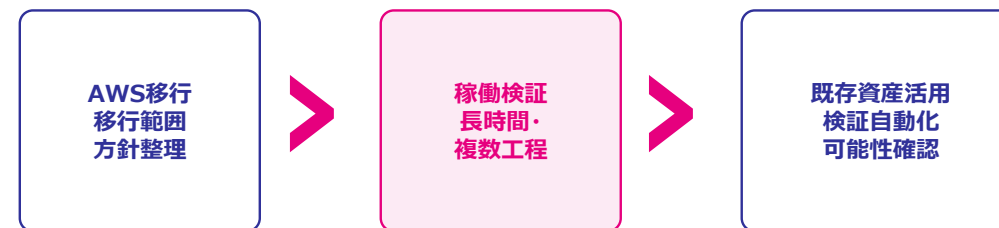


そのAWS移行、 稼働検証の進め方を 整理できていますか



AWS移行・稼働検証 現状整理チェックリスト

8項目・約3分で、移行範囲、検証方法、既存資産活用の「次の一手」を確認



対象：情報システム部門／DX推進担当／製造部門責任者／経営者

A | 移行範囲・方針整理

- ☐ 1 サーバー老朽化やデータセンター閉鎖など、移行期限が決まっている
- ☐ 2 既存構成を維持する範囲と、作り替える範囲を分けて整理できていない
- ☐ 3 WEBシステム・バッチ処理・配布仕組みなど、関連機能の洗い出しが不足している

B | 稼働検証・現場影響

- ☐ 4 生産現場など、停止できない業務で移行後の稼働確認が必要
- ☐ 5 FTP接続による自動更新や連続稼働など、重点検証項目が決まっていない
- ☐ 6 手動検証では、8時間の検証や複数工程の並行確認が難しい

C | 自動化・既存資産活用

- ☐ 7 RPA導入に必要な費用・承認・導入期間が障壁になっている
- ☐ 8 既存ソースコードや社内ツールを検証自動化に使えるか確認していない

*AWS EC2 : Amazon Web Servicesが提供する仮想サーバーです。既存構成を活かして移行範囲を抑える選択肢になることがあります。

チェック数 : /8

0～2個

現状整理を継続

現時点では大きな検討漏れは少ない状態です。移行期限、対象機能、検証結果の記録を残し、変更があれば見直します。

3～5個

検証計画を具体化

手動検証の負荷や、移行範囲の曖昧さが残っている可能性があります。検証項目、対象工程、所要時間を整理します。

6～8個

早めの専門家確認を推奨

移行後の業務影響や検証工数が大きくなる可能性があります。自動化、既存資産活用、改修範囲を含めて確認します。

相談前に整理したい情報

- ・移行期限、対象システム、維持したい既存構成
- ・必須検証項目、稼働時間、対象工程数
- ・既存ツールやソースコード、RPA導入可否

XSEEDSに相談しやすいこと

- ・AWS移行時の現状整理と検証計画
- ・RPAなしの検証自動化の可能性確認
- ・既存資産を活用した改修・移行方針の比較

診断結果をもとに、AWS移行・稼働検証の現状整理からご相談いただけます

無料相談フォームへ



* 記事掲載事例をもとに点検観点として再構成した簡易チェックです。相談前情報・相談内容には一般的な観点を含みます。